

令和7年度第2回大野城市環境政策審議会議事録

1. 日 時 令和7年10月6日（月） 14時00分～15時00分
2. 場 所 大野城市役所 新館3階 322会議室
3. 出席者 ・ 審議会委員
萩島会長、鈴木副会長、浦屋委員
・ 事務局
松竹環境経済部長
(循環型社会推進課) 権藤課長、仁井山係長、中隈係長、保坂

4. 内 容

(1)開会

大野城市環境基本条例施行規則第14条第2項の規定により、過半数の出席で審議会が成立

(2)会長あいさつ（萩島会長）

出席者が少ない会議となったが、皆さんの活発な議論をよろしく願います。

(3)事務局あいさつ（各自、自己紹介。事務局を代表して、部長あいさつ）

(4)審 議

審議事項：大野城市一般廃棄物処理基本計画（令和7年度改定素案）について

～事務局より審議内容の説明～

内容を説明。

～質疑・応答～

【萩島会長】

どれくらい事業所数が増加していて、どれほど影響があるのか

（事務局）

事業所数は収集業者との契約数で算出をしており、令和2年度から令和6年度の間で120程増。

1事業所あたりのごみ排出量はそれぞれ。飲食系であれば生ごみの重量は、紙ごみの重量よりかなり重いことから、排出量が多くなる。

【萩島会長】

経済活動との兼ね合いもあると思う。経済活動が活発になれば、ある程度事業ごみが増えることも想定できる。目標値を上方修正することも起こりうる。事業ごみの増加背景は負の内容だけではないと思うが、どのように対応するかがごみ担当としては重要。

【鈴木副会長】

事業所の対策をどうするのがひとつのポイントになると思う。資料では一般家庭への政策がメインになっている。事業所にターゲットを置いた政策は？

(事務局)

紙おむつのリサイクルについては、においや環境衛生上の問題から、保育所等の事業所から始めてはどうか考えている。

【鈴木副会長】

大牟田のトータルケアシステムに依頼することを考えているのか。

(事務局)

おっしゃるとおり。トータルケアシステムには、試行実施の量であれば受け入れ可能と確認している。一方で、大牟田までの運搬で排出されるCO₂を踏まえると、収集・運搬方法については課題があると考えている。

【鈴木副会長】

すでに試行しているところと運搬を共同で行うのはどうか。紙おむつはごみの組成に占める割合も大きく、今後の増加も予想される。ぜひ進めてほしい。

【浦屋委員】

具体的にはどのように分別を推進していくのか。プラスチックでいうと、ペットボトルと卵パックはなぜ一緒に捨てられないか。

また、紙おむつの搬出について、高齢者の増加に伴い搬出量が増えていると思うが、周囲の目が気になり、夜間にこっそり搬出しているという声を聞いたこともある。

推進のみでなく、小さくてもよいから何か実行をしてほしい。

(事務局)

現状使っている圧縮梱包機はペットボトル専用のものであるため、ペットボトルと卵パックが混在すると、圧縮梱包の際に、機械に不具合が発生する可能性がある。

紙おむつの廃棄も悪臭等の環境衛生面や収集・運搬方法に課題がある。

本格実施に向けては、実証実験をしてアンケートをとるなどして進めたい。計画の中においても、実施に向けてのロードマップを記載している。

【萩島会長】

プラスチックごみの分別は中間処理場が近隣に無いことが問題なのか。

(事務局)

おっしゃる通り。再生処理施設は、私が確認する限り、熊本市のエコポート九州しか選択肢がない状況。

油化では筑後のYKクリーンなどもあると聞いているが、マテリアルリサイクルだと熊本市のエコポート九州となる。

なお、福岡市の東区に再生工場ができるという情報を福岡県庁の担当者から聞いている。

【鈴木副会長】

東区にあるものはあくまで一次選別を行う一次処理施設ではないだろうか？

北九州市では、ビートルエンジニアリングという処理業者が、プラスチックごみの再生処理をしている。この業者が来年度には新施設の稼働開始を計画している。熊本市の中間処理施設よりそちらの方が距離的にはまだ現実味があるのでは？あるいは、福岡市の施設を使うのはどうか？

(事務局)

福岡市の施設を本市も使わせてもらう方向で考えている。

【萩島会長】

1市のみで完結する話ではないため、スケジュール通りにいかないかもしれないがぜひ進めてほしい。

【鈴木副会長】

大刀洗町ではアミタホールディングスにより、めぐるステーションというものが設置されており、卵パック・詰め替えパウチボトル・色付きトレイなど多種多様な容器リサイクルが進められている。

場合によっては、この業者から話を聞いてみるのもよいかもしれない。

【浦屋委員】

那珂川市はプラスチックごみの分別収集を行っているようである。本市では分別がないので、もえるごみがかさばらないよう、プラスチックごみを裁断して捨てている。

北海道苫小牧市ではプラスチックごみの分別が浸透しており、子どもがお菓子のごみ袋も分別している。

【萩島会長】

ごみを焼却するにあたり、サーマルリサイクルという考え方もあるようである。本当に環境にいいリサイクルとなるか考えながら進める必要がある。

(事務局)

南部工場では、ご指摘のサーマルリサイクル(電気の発電)を実施しているが、プラスチックごみの分別が進むと、焼却効率の低下が懸念されることから、今後助燃材を投入しなければならないのではといった話も出ている。

【萩島会長】

社会全体として最もよい方法を考えるべき。

【鈴木副会長】

YKクリーンによるプラスチックごみの油化は、採算性が取れないことにより、規模縮小傾向にあるため、新たな再生処理の方法を検討中との話を聞いている。このYKクリーンを利用して試行するという手もある。

(事務局)

試行を行っている小郡市によると、一度試行をしてしまえば、本格実施を行うものと市民に認識される。そのため、試行にあたっては本格実施の目処をたてないと痛い目を見ろという話であった。慎重に進めたい。

【萩島会長】

フードロスについてはどうか。飲食店のみではなく、客への呼びかけは。

(事務局)

3010運動を実施している。コロナ禍の影響で一時期下火となっていたが、年末年始にむけ引き続き広報を行う。

【鈴木副会長】

事業系ごみ対策にどれくらい踏み込んでいくのか。福岡市は家庭にゆるく、事業者に厳しい。事業所古紙分別の義務化などを行っている。大野城市も事業者の指導に力を入れてみては。事業系古紙回収など。

(事務局)

事業所を対象にした古紙の無料回収を実施しているところであり、登録事業者を今後も増やしていきたい。

【萩島会長】

事業所の排出する紙ごみには機密性の高いものもあり、回収は進みにくいかもしれない。

【鈴木副会長】

手ごたえ的には事業系古紙は削減できているのか。

(事務局)

組成調査では一定量含まれてしまっていた。

【鈴木副会長】

雑紙も回収しているのか。

(事務局)

そのとおり。

【萩島会長】

木製家具リサイクルについてジモティーの利用をしているか。

(事務局)

ジモティー・おいくらとは、利用促進について協定を締結済み。

粗大ごみの受付時にも案内するようにしている。

実情としてはオンラインでの手続きにハードルがあるようだ。

【萩島会長】

手続きを支援している自治体もあるようだ。

【鈴木副会長】

ジモティーと契約している自治体は多い。

【萩島会長】

いろんなアイデアはある程度事務局でも検討されているようだ。地道にやっていくしかない。

今日は改定目標について承認を行えばよいか

(事務局)

数値は概ね環境基本計画に則っている。内訳で事業系ごみの増加分を家庭系ごみの減少で抑える。

【萩島会長】

さらに家庭ごみを減らすのか。

(事務局)

主に新規4施策を推進することで減らしていきたい。

【浦屋委員】

食品ロスについて、一人分の量の食品の販売により、需要とマッチした適切な

販売量が工夫されているが、その分包装量が増えていると思う。容器包装リサイクルを進めてほしい。賞味期限切れによる食品ロスもどうにかしたい。

【萩島会長】

若い世代はシンプルライフを好み、断捨離も流行った。そもそも購入しない refuse も大切。

【鈴木副会長】

集団回収量減について全国的にも減少傾向であり、ある程度やむをえないと思うが、なぜ減っているのか。

(事務局)

紙媒体の減少によるそもそもの資源量の減少と、市内各事業所のダンボールなどの店頭回収が進んでいることが要因だと推察している。

【鈴木副会長】

集団回収の実施団体数や頻度が減少していることはあるか。

(事務局)

延べ数でいえば活動団体数は微増している。

【鈴木副会長】

ということは、集団回収もある程度活発で、かつ事業所も回収をしており、市民には様々な選択肢があるということか。であれば、例えば周辺事業所の回収分（店頭回収等）に流れているということがあれば、図表 2-15 に注釈で「集団回収量の中に民間事業実施量は含まない」というニュアンスを入れてはどうか。

(事務局)

承知した。

【萩島会長】

それでは、改定素案を承認してよろしいか。

審議は、審議委員了承の上、終了

(5)閉 会